

平成18年 6月 1日

能代山本だより

第21号

能代山本地域の田植えもようやく終わりました。五月も寒い日が続き、田植えが例年よりも一週間程度遅れていました。ツツジも今、盛りを迎えています。

白神山地も雪が多く、いつもは融けているところでも、まだ2～3メートルもあるそうです。山菜が出るのも遅れており、タケノコも遅れるだろうと言っています。

今年の藤里の岳岱のブナ林や藤里駒ヶ岳、八森側から入る二ツ森が5月28日から入山できるようになりました。

連休明け、全国に衝撃的なニュースが流れました。藤里町の小学生の事件です。発見された場所が、二ツ井の米代川の河岸だったので、ニュース報道などでは、能代市の名前が毎日出ていました。合併したことで能代市の名前が出るのですが、私たち地元人間にとっては、二ツ井町という意識が強く、まだ違和感があります。

事件は未だに解決していません。観光シーズンを迎え、白神山地を抱える地元藤里町では、町のイメージダウンにつながるのではないかと危惧し始めています。私たち能代市の観光振興室も早く解決してくれることを願っているところです。

イベント・まつり

能代工が準優勝 / 能代カップ高校選抜バスケットボール大会 6-5-1

第19回能代カップ高校選抜バスケットボール大会（能代市・郡市バスケットボール協会主催）は米国のモントロス・クリスチャン高校が5戦全勝で初優勝。地元の能代工はモントロスに敗れ、通算4勝1敗で2位でした。最終日は小雨模様でしたが、3日間で最高の観客動員数3,767人を記録し、「田臥勇太人気に沸いた10年以來では」という人出で、能代工 モントロスの最終戦前にはさらに膨れ上がり、入場制限をするほどでした。

能代で宇宙への夢再び 6-5-2

能代宇宙イベント協議会は今年もまた、夏に浅内の浅内鉱さい堆積場跡地で「能代宇宙イベント2006」を開催します。大学生たちの宇宙にかける夢の「競演」ということで、昨年度初めて実施したもので、全国各地の大学生たちがモデルロケットの打ち上げや自律ロボット制御コンペなど、宇宙にかける夢を競い合ったイベントの第2弾で、新たにモデルロケットを使った缶サットキット競技も予定し、宇宙教育への関心や参加のすそ野を広げたい考えで、5月17日には新岡会長らが市役所に齊藤市長を訪問、協力を要請しました。

あでやかな姿にため息 / 嫁見まつり 6-5-3

能代市御指南町の日吉神社で5月18日の夕方、中の申まつりの宵宮のまつりである「嫁見まつり」が行われ、あでやかな花嫁衣装を身にまとった女性9人が、新緑に覆われた参道を歩み、大勢の見物人を魅了しました。今年は能代山本のほか秋田市、東京から10～30代の女性9人（うち未婚5人）が参加し、文金高島田にあでやかな着物姿の女性たちは美容師や母親らに手を引かれ、若葉に囲まれた参道を静々と進みました。

『ひまわり号』6月11日に十二湖へ

6-5-4

障害児・者や高齢者などが列車の旅を楽しむ「ひまわり号」が、6月11日にJR能代駅と十二湖駅間（青森県深浦町）で運行されます。能代市民有志が「共に生きる夢を乗せ、共にはぐくむ社会の創造」を目的に企画運営、15回目を数える心のふれあいの旅で、今年も参加者や一般ボランティアを募集しています。

能代の食・農・魚の話題

直売所「ぶりこ」が開店 / 八峰

6-5-5

八峰町の農林水産物直売施設「ぶりこ」が4月27日、八森の御所の台にある温泉施設「ハタハタ館」の隣接地にオープンしました。

シラヤ漁 / 米代川河口で

6-5-6

能代市の春の風物詩とされるシラヤ漁が、米代川河口で5月5日から始められました。大雪の影響で収量は例年より少ないが、漁民らは昔ながらの「四ツ手網」を巧みに使いこなし、漁に汗を流していました。ここ数年、激減している水揚げ量ですが、今年は大雪の雪解け水で川の流れが早く、水温も低いことから、5月下旬まで漁期が延びていました。昔は庶民の味でしたが、いまでは、年に一度か二度食べられればよいものになってきています。

五月晴れに焼イカ満喫 / 八峰

6-5-7

八峰町から青森県境までの国道101号線沿いに、今年も“イカのカーテン”がお目見えしました。沿線のドライブインや焼きイカの販売店でマイカなどをまとめて天日干しする五能線沿いならではの光景です。景色も良いですが、日本海を眺めながらつまむ焼きイカの味は、みんなを引きつけます。

ジュンサイ摘み始まる / 三種町森岳

6-5-8

三種町森岳地区で、ジュンサイの摘み取りが始まりました。今年豪雪と低温で例年より遅めの収穫開始となっていますが、沼に小舟を浮かべて丁寧に手で摘み取る光景は、初夏の風情を感じさせてくれます。

スナップエンドウ、収穫盛期 / 能代市

6-5-9

能代市農業技術センターのハウスで、スナップエンドウが収穫期を迎えています。春野菜までの端境期に収穫できる作物の研究のため試験栽培しているもので、同センターでは収穫期間など新規導入作物としての可能性を確認しながら、農家に紹介していきます。同センターでは、「成長していく途中での誘引に若干の手間が掛かるが、その後はそれほど難しくないので、キヌサヤエンドウと比べ、実入りしすぎても商品価値が下がらないことも魅力で、あとはどの程度のスパンで収穫していけるか確認したい。」と語っています。

能代山本、田植えが最終盤へ

6-5-10

能代山本地方の田植え作業は終盤を迎え、好天に恵まれた5月27日は、圃場に田植機を入れ作業に追い込みをかける農家や、手作業で植えムラを整える補植（通称 あなっこ植え）に取り組む姿がみられました。ただ、一部の山間部で田植えが続いており、春作業の遅れが響いています。

白神キャベツ / 収穫は6月中旬から

6-5-11

能代山本はキャベツの産地です。これから春キャベツの収穫が始まります。白神キャベツの名前で首都圏などに出荷されてきています。甘みがあり、みずみずしく、美味しいと評判が高くなっています。テレビ番組「どっちの料理ショー」の厳選素材として紹介されたこともあり、人気があります。今年は春、寒かったこともあり、収穫は6月中旬からになります。主な産地は能代市では、河戸川地区、東雲地区、三種町では森岳地区などです。ほとんどがJA、青果市場を通して、スーパーマーケット、八百屋などの店頭並びます。【直接購入を希望する場合は、産直施設「みょうが館」(0185-58-3005)に問い合わせください。】

白神関係

十二湖山開き、観光シーズン幕開け

6-5-12

青森県深浦町の津軽国定公園・十二湖の山開きが28日、同町のサンタランド白神で行われ、春の訪れとともに観光・行楽シーズンが開幕しました。

十二湖は、大小33の湖沼群とブナの森に囲まれた景勝地で、周辺にはサンタランドやリフレッシュ村など観光・宿泊施設が整備されているほか、世界自然遺産・白神山地への登山口、海水浴場で知られる大間越などが近いことから多くの観光客でにぎわいます。

「のしろ白神の道」も検討対象 / 国交省

6-5-13

国土交通省が公募した風景が美しく走りたくくなるような「日本風景街道」で、能代山本の地域づくり・道づくり団体「のしろ白神ネットワーク」(能登祐子代表)が申請したモデルルート「のしろ白神の道」が、支援の検討対象となりました。

十和田 白神 男鹿で観光バス運行

6-5-14

能代市二ツ井町字三千苅の第一観光バス(中嶋日吉社長)は、5月25日から十和田湖～白神山地～男鹿半島をコースとする定期観光バスの運行を開始しました。同社は白神山地や森吉山などの定期観光バスや、利用者ニーズに対応したタクシー運行などアイデアに富んだ事業展開で注目を集めていますが、今回の新観光ルートの開発は県北の観光需要の掘り起こしにも一役を買うものと期待されています。

【問い合わせ 第一観光バス 0185-73-3200】

春山シーズンが開幕 / 能代山本

6-5-15

能代山本を代表する「3名山」で28日、登山が行われ、本格的な春山シーズンが開幕しました。房住山と藤里駒ヶ岳、二ツ森の3カ所で、このうち霊山・房住山は地元小学生を含む約120人が雨の中、山頂を目指したほか、藤駒では県内外の登山愛好者が残雪を踏み締めながら白神山地の遅い春を満喫しました。二ツ森では、新緑をめでた後、ハタハタ館で温泉と日本海の眺望を楽しみました。

子ども・教育・学校

ロケット発射直前を再現 / 市子ども館

6-5-16

能代市子ども館で5月20日、モデルロケットのランチャー（打ち上げ台）の組み立て作業が行われました。今年3月に北海道大樹町で行われた打ち上げ実験で使用された現物で、モデルロケットをセットし、打ち上げ直前の様子を再現するようにホールに展示されました。

木・木材

能代で花輪ばやしの大太鼓製作

6-5-17

日本三大ばやしの一つとされる鹿角市の伝統行事・花輪ばやしで使われる大太鼓が、能代市寿域長根の小野製桶所で生まれようとしています。太鼓づくりのベテランが少なくなっている中、能代市の小野製桶所に太鼓製作依頼が持ち込まれたもので、今年の花輪ばやしは能代で磨かれた伝統技術が作り出した大太鼓によって命が吹き込まれます。大太鼓を製作しているのは同製桶所の小野志朗さん（72 = 伝統工芸士）。もともとの専門は天然秋田杉の桶樽（おけたる）製作だが、桶づくりの技術を援用し、太鼓づくりのキャリアも約40年に上るベテランです。

スポーツ・文化

「歴史マップ」を設置 / 能代市鶴形

6-5-18

能代市の鶴形地域まちづくり協議会（小林吉郎会長）は、鶴形地域センター（旧出張所前）に鶴形地区の史跡や旧跡、寺院などを図示した案内板「鶴形歴史マップ」を設置しました。地域の歴史的資源にスポットを当てようと、17年度事業で実施し、宝暦9年（1759年）の絵図などを元に歴史部会（山崎春美部会長）が地図作りを進め、4月下旬に完成しました。

歌舞伎小屋でこけら落とし / 三種町森岳

6-5-19

三種町の森岳歌舞伎小屋（芸術会館）が大改修されたことを祝うこけら落とし公演が28日、同町森岳字岩瀬の同会館で行われました。あいにくの雨にもかかわらず、約200人の観衆が詰めかけ、源平の攻防に題材を取った「一谷嫩軍記（いちのたにふたばぐんき）」の「林住家の段」（別名・あばら屋の段）を鑑賞しました。地元保存会の熱演に拍手を送るとともに、新たな“ひのき舞台”の完成を祝いました。

手作りの「引き幕」完成 / 森岳歌舞伎

6-5-20

三種町の森岳歌舞伎小屋（芸術会館）が大改修されたことを記念して、地区の女性有志らが55年ぶりに舞台の引き幕を製作しました。パッチワークの技法を使い、約3カ月かけて1針1針縫い合わせた労作です。28日の会館こけら落とし公演でお披露目され、製作に参加した女性たちは「幕を彩る桜は、末永く咲き続けてくれるはず」と、完成を喜んでいます。

暮らし

人口減、1年で588人 / 能代市

6-5-21

能代市は、17年度末(3月31日)現在の人口と世帯数をまとめました。旧能代市と旧二ツ井町の合併後、初めての人口統計で、新・能代市は人口6万3985人でスタートしました。前年度同期(旧市、旧町の合計)に比べ588人減少し6万4千人台を割っており、少子化や若年層の流出などによる自然減、社会減にいかにか歯止めをかけるかが新市の大きな課題となる一方で、世帯数は121増と家族の少人数化も進んでいます。

アーケード解体を確認 / 駅前商店街組合

6-5-22

能代市駅前商店街振興組合は19日夜、能代商工会館で通常総会を開き、今年度事業計画、予算案など7議案を原案通り承認した。また、任期満了(2年)に伴う役員改選では藤盛慧理事長(藤盛電器)を再任した。アーケード解体問題では、畠町や中央の2商店街・商店会との協同步調による今冬降雪前の解体を再確認。市への要望にあたっては、駅前商店街各ブロック合計の解体費の支援を求めたことが明らかにされています。

自然

「風の松原」で市民ボランティア大会

6-5-23

風の松原ボランティア協議会(清水安雄会長)主催の風の松原を守る市民ボランティア大会は7日開かれ、900人余の市民らが参加しました。人海戦術で松の枯れ枝などを拾い集め、先人から受け継いだ松原の偉大さを体感しながら松くい虫の被害拡大防止の一助にと地道な活動に汗を流しました。約2時間の活動で、10トントラック4台分、2トントラック14台分の枝が処理先のバイオマス発電所へと搬送されました。

木を植える男・ポールさんが能代市に

6-5-24

地球環境の保護を願って世界各地で木を植え、「木を植える男」として知られるポール・コールマンさんが7日、能代市を訪れ、市内の公園で子どもたちと植樹したほか、講演会で多くの人に地球の美しさを訴えました。ポールさんは英国出身で、15年前から、20世紀の戦争で亡くなった犠牲者のために1億本の木を植えようと世界各地を回っています。日本でも広島や長崎などを訪れ、戦争で犠牲になった人々のために植樹活動を行っています。ポールさんの来能は、能代市出身の山本ひとみさん(横浜市)が、翻訳家の山川亜希子さんのメールマガジンでポールさんの活動に関心を持ったことが始まり。能代市の知人らが「木を植える男、ポールさんを能代に呼ぶ会」(松野暁会長)を結成し、市民まちづくり活動支援事業の補助金を受け講演会を企画しました。

釜谷浜が快水浴場100選に / 環境省

6-5-25

環境省の「快水浴場百選」に三種町(旧八竜町)の釜谷浜海水浴場が選ばれました。5年前の「日本の水浴場88選」に続く選定で、本県からは宮沢海水浴場(男鹿市)、象潟海水浴場(にかほ市)も選ばれました。釜谷浜海水浴場は「離岸堤のない自然のままの砂浜で、水のきれいな海水浴場として知られ、ビーチは海水浴はもちろん、釣りやキャンプに最適、カップルや家族連れでにぎわう」と評価されました。

ハクビシン、民家の庭先にひょっこり

6-5-26

能代市砂留山の民家の庭に鼻の白い模様が特徴的なハクビシンが出没し、「こんな所に現れるなんて珍しい」と地域住民らを驚かせました。ハクビシンは、ジャコウネコ科の一種で、見た目はネコやタヌキに似ているが、尾は太長く、鼻に白い線を持つ。毛色は全体的に黒褐色。東南アジアに広く分布し、日本では移入されたものが野生化しています。

28日に山開き登山 / 房住山

6-5-27

三種町のシンボルの一つになっている房住山の山開き 5月28日に行われ、本格的な軽登山シーズンが幕開けしました。当日は午前7時50分からぼうじゅ館前で受け付け後、神事とテープカットでシーズン中の無事故を祈念し、8時20分ごろから登山を開始しました。

きみまち阪にも被害木 / 松くい虫

6-5-28

能代・山本地区松くい虫防除対策会議が29日、能代市の県山本地域振興局で開かれ、今年度の一斉防除計画や関係機関の防除計画などを説明しました。管内では、被害木の伐倒駆除1万1342立方メートル、薬剤散布726ヘクタールを予定。県側からは、マツノマダラカミキリの産卵対象となる雪害木の処理に協力要請があったほか、能代市二ツ井地域局は「きみまち阪公園内に被害木とみられる松を1本確認しており、今後は公園全体を守ることを考えなければならない」と報告しました。

その他

仁鮎小でCMを撮影 / ニツ井

6-5-29

能代市ニツ井町の仁鮎小（畠山員範校長）で10日、DVDなどを製造する日立マクセルのテレビコマーシャル（CM）撮影が行われ、同校の全校児童47人が臨みました。能代フィルムコミッション（FC）の仲介で実現し、趣ある木造校舎の中で、児童らは少し緊張しながらカメラの前に立っていました。畠山校長は「2年後の廃校を前に、子どもたちのいい思い出になった」と話していました。6月9日から一ヶ月間、テレビ朝日系列の放送局で全国に流されます。

140人体制で本格操業 / 杏林製薬

6-5-30

医薬品メーカーの杏林製薬（本社・東京都千代田区、荻原郁夫代表取締役社長）が、能代市の松原工業団地内に建設を進めていた能代工場新製剤棟が完成しました。国内の主力生産拠点との位置付けで約80億円を投じて建設、他工場からの移転や地元雇用を合わせ140人余体制で操業をスタートしました。11日は同社や県・市などの関係者ら約60人が出席して竣工式が行われました。

渡辺指物店が知事賞 / 県建具展

6-5-31

県建具組合連合会主催の第37回県建具展（19日～21日、会場・横手市の秋田ふるさと村）で、能代市の渡辺指物店（渡辺福蔵代表）が最高賞の県知事賞に輝いたほか、同じく同市の武田木工（武田久雄代表）も次席の東北森林管理局長賞に選ばれ、上位を独占しました。

お知らせ

ブログ 『能代でらっと情報』

能代の最新的话题を毎日、**ブログ**で発信しています。

お近くのパソコンでぜひご覧ください。

《 1 》 検索サイトから

[Google](#) (グーグル) [Infoseek](#) (インフォシーク) [goo](#) (グー)

[Excite](#) (エキサイト) [Yahoo](#) (ヤフー)

検索 『能代でらっと情報』と入れて、検索してください。

《 2 》 能代でらっと情報のURL

http://blog.livedoor.jp/noshiro_kanko/

《 3 》能代市のホームページ 能代の観光からもブログに入れます。

検索サイト

能代市

観光情報

能代地域

能代市観光

能代でらっと情報

能代 P R 大使から

| | |
|-------|-------------|
| (項 目) | (能代 P R 大使) |
| (内 容) | |

| | |
|-------|-------------------------|
| F A X | 0 1 8 5 - 8 9 - 1 7 7 6 |
|-------|-------------------------|

| | |
|------|-------------------------|
| 電話番号 | 0 1 8 5 - 8 9 - 2 1 7 9 |
|------|-------------------------|

E メール syokou@city.noshiro.akita.jp
kouki-ebisuya@city.noshiro.akita.jp